2. 社会とのつながり

経済的負担

がんの治療費負担による治療の変更・断念

問 16. 経済的負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか。
回答選択肢：{ある；ない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 16	回答者全体	「ある」と回答した人の割合
結果	2.5%	

「ある」と回答した人のうち、「保険診療範囲外の治療」と回答したのは 60.0%(全体:1.5%)、「先進医療」と回答したのは 12.0%(全体:0.3%)、「保険診療範囲内での治療」と回答したのは 12.0%(全体:0.3%)、「わからない」と回答したのは 16.0%(全体:0.4%)。

＜成人患者体験調査との比較＞
成人調査において、同一の問いに対する結果は 4.9%であった。

＜がん種別の結果＞
「ある」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 2.7%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 2.7%、【脳腫瘍患者】で 2.3%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった(P=1.00)。

がん種 / 治療の変更・断念	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
ある	26 (2.5%)	13 (2.7%)	10 (2.7%)	3 (2.3%)
ない	1002 (97.5%)	467 (97.3%)	366 (97.3%)	125 (97.7%)
合計	1028 (100%)	480 (100%)	376 (100%)	128 (100%)

問 16 への無回答(1 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 44 名を含む。

＜留意点＞
小児がん患者は小児慢性特定疾病医療費助成制度の対象となり、医療費の自己負担分が助成される[1]。

参考資料：
1. 小児慢性特定疾病情報センター. 小児慢性特定疾病の医療費助成について. https://www.shouman.jp/assist/outline#contents01. (閲覧日：2021 年 2 月 28 日)

医療費確保のための対応

問 17.　医療費を確保するために、次に挙げたようなことがありましたか（当てはまるものすべてに〇）。
回答選択肢：{日常生活における食費、衣料費を削った；受診の間隔を延ばしたり、受診を一時的に見送った；主治医に処方薬や治療法を安価なものに変更してもらった；治療頻度や治療内容（薬など）を主治医に相談せずに自分で減らした；長期に貯蓄していた貯金を切り崩した；収入を増やすため、家族が仕事を増やした、あるいは働くようになった；親戚や他人から金銭的援助を受けた（借金を含む）；車、家、土地などを手放した、あるいは引っ越した；家族の進学先を変更した（進学をやめた/転校した）；その他；上記のようなことはなかった；わからない}

	対象(分母)	算出法（分子）
問 17	「わからない」以外と回答した人	回答選択肢に挙げられたいずれかの対応をしたと回答した人*の割合
結果	41.7%	

*「上記のようなことはなかった」以外の回答者

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査では「医療費を確保するために」となっているが、成人調査では「病院で医療を受けるために必要な金銭的負担が原因で」となっており、質問表現が一部異なってはいるが、同様の問いに対する結果は 26.9%であった。

詳細な結果は下記。

選択肢	小児調査 回答数	小児調査 割合	成人調査 補正割合
日常生活における食費、衣料費を削った	228	22.9%	8.0%
受診の間隔を延ばしたり、受診を一時的に見送った	5	0.5%	1.1%
主治医に処方薬や治療法を安価なものに変更してもらった	7	0.7%	2.5%
治療頻度や治療内容（薬など）を主治医に相談せずに自分で減らした	0	0%	0.3%
長期に貯蓄していた貯金を切り崩した	263	26.4%	20.0%
収入を増やすため、家族が仕事を増やした、あるいは働くようになった	38	3.8%	1.8%
親戚や他人から金銭的援助を受けた（借金を含む）	129	12.9%	3.6%
車、家、土地などを手放した、あるいは引っ越した	12	1.2%	0.8%
家族の進学先を変更した（進学をやめた/転校した）	15	1.5%	0.1%
その他	23	2.3%	0.5%
上記のようなことはなかった	581	58.3%	73.1%

複数回答可（小児調査における合計 997 名）。問 17 への無回答（15 名）、「わからない」と回答（17 名）した人は除外。

＜がん種別の結果＞
「上記のようなことはなかった」以外と回答した人は【造血器腫瘍患者】で 41.5%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 42.8%、【脳腫瘍患者】で 38.7%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった(P=0.73)。

がん種 医療費確保への対応	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
日常生活における食費、衣料費を削った	228 (22.9%)	108 (23.1%)	83 (22.9%)	26 (21.0%)
受診の間隔を延ばしたり、受診を一時的に見送った	5 (0.5%)	3 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0%)
主治医に処方薬や治療法を安価なものに変更してもらった	7 (0.7%)	2 (0.4%)	4 (1.1%)	0 (0%)
治療頻度や治療内容(薬など)を主治医に相談せずに自分で減らした	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
長期に貯蓄していた貯金を切り崩した	263 (26.4%)	121 (25.9%)	99 (27.3%)	30 (24.2%)
収入を増やすため、家族が仕事を増やした、あるいは働くようになった	38 (3.8%)	16 (3.4%)	15 (4.1%)	7 (5.6%)
親戚や他人から金銭的援助を受けた(借金を含む)	129 (12.9%)	54 (11.5%)	47 (13.0%)	19 (15.3%)
車、家、土地などを手放した、あるいは引っ越した	12 (1.2%)	3 (0.6%)	7 (1.9%)	2 (1.6%)
家族の進学先を変更した(進学をやめた/転校した)	15 (1.5%)	4 (0.9%)	7 (1.9%)	4 (3.2%)
その他	23 (2.3%)	11 (2.4%)	8 (2.2%)	3 (2.4%)
上記のようなことはなかった	581 (58.3%)	274 (58.5%)	207 (57.2%)	76 (61.3%)

複数回答可(合計 997 名)。問 17 への無回答（15 名)、「わからない」と回答（17 名）した人は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 43 名を含む。

＜留意点＞
「わからない」と回答した人は、無回答と同様の扱いとして、分母から除外した。また、本問は、経済的負担の理由を「医療費を確保するために」と限定して聞いているため、例えば、二重生活における生活費工面のための借金等は含まれていない可能性がある。

経済的負担軽減のための制度利用

問 18. 経済的負担を軽減するために利用したものについて、お答えください（当てはまるものすべてに○）。
回答選択肢：{小児慢性特定疾病医療費助成；特別児童扶養手当；障害児福祉手当；自立支援医療費制度（育成医療）；乳幼児等に係る医療費の援助（各市町村が実施する乳幼児等に対する医療費の援助）；高額療養費制度；生命保険・民間医療保険；患者団体による支援制度；その他；上記のものは利用していない}

	対象(分母)	算出法（分子）
問 18	回答者全体	何らかの制度を利用したと回答した人*の割合
結果	99.1%	

*「上記のものは利用していない」以外の回答者

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
「上記のものは利用していない」以外と回答した人は【造血器腫瘍患者】で 99.8%、【固形腫瘍患者（脳腫瘍を除く）】で 98.1%、【脳腫瘍患者】で 100%であった。【固形腫瘍患者（脳腫瘍を除く）】は【造血器腫瘍患者】よりも統計的有意に低く（P=0.03）、【脳腫瘍患者】と【固形腫瘍患者（脳腫瘍を除く）】、【造血器腫瘍患者】と【脳腫瘍患者】ではいずれも統計的有意差はなかった（各々P=0.20、P=1.00）。
「上記のものは利用していない」という回答の患者は、年齢中央値 1 歳（年齢幅：0 歳～17 歳）であった。
「小児慢性特定疾病医療費助成」を利用したと回答した人は、【固形腫瘍患者（脳腫瘍を除く）】で【造血器腫瘍患者】および【脳腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった（各々P<0.01, P=0.04）。また、【脳腫瘍患者】は【造血器腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった（P<0.01）。
「小児慢性特定疾病医療費助成」を利用しなかったという回答の患者は、年齢中央値 13 歳（年齢幅：0 歳～18 歳）であった。

がん種 利用した制度・支援	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍（脳腫瘍を除く）	脳腫瘍
小児慢性特定疾病医療費助成	895 (87.0%)	456 (94.8%)	294 (78.2%)	111 (86.7%)
特別児童扶養手当	334 (32.5%)	185 (38.5%)	98 (26.1%)	35 (27.3%)
障害児福祉手当	65 (6.3%)	26 (5.4%)	25 (6.6%)	12 (9.4%)
自立支援医療費制度(育成医療)	10 (1.0%)	3 (0.6%)	2 (0.5%)	5 (3.9%)
乳幼児等に係る医療費の援助(各市町村が実施する乳幼児等に対する医療費の援助)	320 (31.1%)	130 (27.0%)	128 (34.0%)	48 (37.5%)
高額療養費制度	324 (31.5%)	124 (25.8%)	148 (39.4%)	38 (29.7%)
生命保険・民間医療保険	413 (40.1%)	193 (40.1%)	154 (41.0%)	51 (39.8%)
患者団体による支援制度	50 (4.9%)	19 (4.0%)	15 (4.0%)	12 (9.4%)
その他	10 (1.0%)	3 (0.6%)	6 (1.6%)	1 (0.8%)
上記のものは利用していない	9 (0.9%)	1 (0.2%)	7 (1.9%)	0 (0%)

複数回答可（合計 1029 名）。全がんには、がんの種類を無回答（問 8 へ無回答）の 44 名を含む。

＜留意点＞

特記事項なし。

医療費以外の経済的負担

問 19. 医療費以外に負担の大きかったものについて、お答えください（当てはまるものすべてに○）。
回答選択肢：{交通費；付き添い家族の生活費・宿泊費；きょうだいの保育園等に関わる費用；骨髄バンク調整等の費用；予防接種の費用；補装具(義肢、義眼、補聴器、車いす等)の費用；その他；経済的に負担となったものは特になかった}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 19	回答者全体	医療費以外に負担が大きいものがあったと回答した人*の割合
結果	85.8%	

*「経済的に負担となったものは特になかった」以外の回答者

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
「経済的に負担となったものは特になかった」以外と回答した人は【造血器腫瘍患者】で 86.1%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 84.2%、【脳腫瘍患者】で 90.6%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった(P=0.19)。

がん種 / 医療費以外の負担	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
交通費	623 (60.7%)	281 (58.4%)	233 (62.5%)	85 (66.4%)
付き添い家族の生活費・宿泊費	593 (57.8%)	280 (58.2%)	203 (54.4%)	82 (64.1%)
きょうだいの保育園等に関わる費用	114 (11.1%)	65 (13.5%)	30 (8.0%)	12 (9.4%)
骨髄バンク調整等の費用	45 (4.4%)	39 (8.1%)	5 (1.3%)	0 (0%)
予防接種の費用	103 (10.0%)	68 (14.1%)	25 (6.7%)	6 (4.7%)
補装具(義肢、義眼、補聴器、車いす等)の費用	99 (9.6%)	8 (1.7%)	66 (17.7%)	21 (16.4%)
その他	98 (9.6%)	44 (9.1%)	43 (11.5%)	9 (7.0%)
経済的に負担となったものは特になかった	146 (14.2%)	67 (13.9%)	59 (15.8%)	12 (9.4%)

複数回答可(合計 1026 名)。問 19 への無回答(3 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 44 名を含む。

＜留意点＞
本問は診断や治療に関連した費用以外の負担を調査するために設定した。

家族の就労

ケアのための就労の変更

問 30.　患者さんをケアするためにご家族のうちに誰か、仕事や働き方を変えた方はいますか。なお、仕事や働き方を変えたとは、休職・休業だけではなく介護休暇や短時間勤務制度も含みます。
回答選択肢：{はい；いいえ}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 30	回答者全体	「はい」と回答した人の割合
結果	65.5%	

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別・就業形態別の結果＞
問 30 で「はい」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 70.2%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 58.3%、【脳腫瘍患者】で 69.3%であった。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】は【造血器腫瘍患者】および【脳腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった（各々P<0.01、P=0.03)。また、【造血器腫瘍患者】と【脳腫瘍患者】では統計的有意差はなかった（P=0.84)。
問 31 で質問した変更前の就業形態は、3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった(P=0.41)。
問 32 で「退職・廃業した」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 35.5%、【固形腫瘍患者（脳腫瘍を除く）】で 31.0%、【脳腫瘍患者】で 29.5%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった(P=0.40)。
「休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 34.0%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 34.7%、【脳腫瘍患者】で 42.0%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった(P=0.37)。

【問 30】

がん種 就労の変更	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
はい	671 (65.5%)	337 (70.2%)	218 (58.3%)	88 (69.3%)
いいえ	353 (34.5%)	143 (29.8%)	156 (41.7%)	39 (30.7%)
合計	1024 (100%)	480 (100%)	374 (100%)	127 (100%)

問 30 への無回答（5 名）は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 43 名を含む。

問 31～34 は、患者さんをケアするために、仕事や働き方を変えた方について伺います。
（複数いらっしゃる場合は最も変化の大きかった方についてお答えください）
問 31. 変更する前のお仕事における就業形態についてお答えください。
回答選択肢:{正社員；個人事業主；契約職員･委託職員；パート･アルバイト；派遣職員；その他}
働き方を変えたと回答した人の分布（問 30 で「はい」と回答した人）（合計 671 名）

がん種 就業形態	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
正社員	325 (48.7%)	160 (47.9%)	113 (51.8%)	41 (47.1%)
個人事業主	45 (6.7%)	27 (8.1%)	13 (6.0%)	4 (4.6%)
契約職員・委託職員	37 (5.5%)	15 (4.5%)	12 (5.5%)	7 (8.0%)
パート・アルバイト	236 (35.4%)	123 (36.8%)	70 (32.1%)	32 (36.8%)
派遣職員	14 (2.1%)	8 (2.4%)	5 (2.3%)	1 (1.1%)
その他	10 (1.5%)	1 (0.3%)	5 (2.3%)	2 (2.3%)
合計	667 (100%)	334 (100%)	218 (100%)	87 (100%)

問 31 への無回答（4 名）は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 28 名を含む。

問 31～34 は、患者さんをケアするために、仕事や働き方を変えた方について伺います。
（複数いらっしゃる場合は最も変化の大きかった方についてお答えください）
問 32. 患者さんががんと診断された時のお仕事について、治療中のケアのために以下のようなことがありましたか。
回答選択肢:{退職・廃業した；休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった；転職した；短時間勤務や時差出勤などを利用した；上記のようなことはなかったが、職場から残業を減らす等融通してもらった；わからない}
働き方を変えたと回答した人の分布（合計 671 名）

がん種 / 就業の変更	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍（脳腫瘍を除く）	脳腫瘍
退職・廃業した	217 (32.8%)	118 (35.5%)	66 (31.0%)	26 (29.5%)
休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった	236 (35.7%)	113 (34.0%)	74 (34.7%)	37 (42.0%)
転職した	10 (1.5%)	5 (1.5%)	3 (1.4%)	1 (1.1%)
短時間勤務や時差出勤などを利用した	124 (18.8%)	52 (15.7%)	47 (22.1%)	19 (21.6%)
上記のようなことはなかったが、職場から残業を減らす等融通してもらった	74 (11.2%)	44 (13.3%)	23 (10.8%)	5 (5.7%)
合計	661 (100%)	332 (100%)	213 (100%)	88 (100%)

問 32 への無回答（7 名）、「わからない」と回答（3 名）した人は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 28 名を含む。

働き方を変えたと回答した人の分布 ＜就業形態別の結果＞（合計 671 名）

	正社員	個人事業主	契約社員・委託社員	パート・アルバイト	派遣職員	その他
退職・廃業した	65 (20.1%)	7 (16.3%)	21 (56.8%)	115 (48.9%)	8 (57.1%)	1 (14.3%)
休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった	147 (45.5%)	11 (25.6%)	9 (24.3%)	66 (28.1%)	1 (7.1%)	0 (0%)
転職した	7 (2.2%)	1 (2.3%)	0 (0%)	2 (0.9%)	0 (0%)	0 (0%)
短時間勤務や時差出勤などを利用した	46 (14.2%)	18 (41.9%)	6 (16.2%)	45 (19.1%)	3 (21.4%)	6 (85.7%)
上記のようなことはなかったが、職場から残業を減らす等融通してもらった	58 (18.0%)	6 (14.0%)	1 (2.7%)	7 (3.0%)	2 (14.3%)	0 (0%)
合計	323 (100%)	43 (100%)	37 (100%)	235 (100%)	14 (100%)	7 (100%)

問 31、問 32 への無回答（それぞれ 4 名、7 名。計 9 名）、問 32 へ「わからない」と回答（3 名）した人は除外。

＜留意点＞

問 32 においては、「わからない」と回答した人は、無回答と同様の扱いとして、分母から除外した。

就労に際する配慮

問 31～34 は、患者さんをケアするために、仕事や働き方を変えた方について伺います。
（複数いらっしゃる場合は最も変化の大きかった方についてお答えください）
以下の文章を読んで、その内容がどの程度当てはまるかを考え、お答えください。
問 33. 患者さんの治療中に、職場や仕事上の関係者からケアと仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があった。
回答選択肢：{とてもそう思う；ある程度そう思う；ややそう思う；どちらともいえない；そう思わない；わからない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 33	働き方を変えたと回答した人*	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合
結果	58.9%	

*問 30 に「はい」と回答した人

＜成人患者体験調査との比較＞
成人調査において、同一の問いに対する結果は 65.0%であったが、対象(分母)が「診断時、収入のある仕事をしていた」となっており小児調査と対象者が異なるため比較はできない。

＜がん種別・就業形態別の結果＞
「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 57.4%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 61.8%、【脳腫瘍患者】で 55.7%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった（P=0.49)。

働き方を変えたと回答した人の分布（合計 671 名）

がん種 / 勤務上の配慮	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
とてもそう思う	249 (37.8%)	119 (35.7%)	87 (41.0%)	30 (34.1%)
ある程度そう思う	139 (21.1%)	72 (21.6%)	44 (20.8%)	19 (21.6%)
ややそう思う	64 (9.7%)	34 (10.2%)	20 (9.4%)	9 (10.2%)
どちらともいえない	63 (9.6%)	30 (9.0%)	20 (9.4%)	12 (13.6%)
そう思わない	94 (14.3%)	59 (17.7%)	19 (9.0%)	13 (14.8%)
わからない	50 (7.6%)	19 (5.7%)	22 (10.4%)	5 (5.7%)
合計	659 (100%)	333 (100%)	212 (100%)	88 (100%)

問 33 への無回答(12 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 26 名を含む。

働き方を変えたと回答した人の分布 ＜就業形態別の結果＞（合計 671 名）

	正社員	個人事業主	契約社員・委託社員	パート・アルバイト	派遣職員	その他
とてもそう思う	136 (42.0%)	15 (34.1%)	7 (18.9%)	84 (36.7%)	2 (14.3%)	3 (33.3%)
ある程度そう思う	84 (25.9%)	13 (29.5)	7 (18.9%)	32 (14.0%)	1 (7.1%)	2 (22.2%)
ややそう思う	28 (8.6%)	5 (11.4%)	6 (16.2%)	24 (10.5%)	1 (7.1%)	0 (0%)
どちらともいえない	29 (9.0%)	5 (11.4%)	5 (13.5%)	20 (8.7%)	3 (21.4%)	1 (11.1%)
そう思わない	35 (10.8%)	5 (11.4%)	9 (24.3%)	41 (17.9%)	4 (28.6%)	0 (0%)
わからない	12 (3.7%)	1 (2.3%)	3 (8.1%)	28 (12.2%)	3 (21.4%)	3 (33.3%)
合計	324 (100%)	44 (100%)	37 (100%)	229 (100%)	14 (100%)	9 (100%)

問 31、問 33 への無回答（それぞれ 4 名、12 名。計 14 名）は除外。

＜留意点＞

本問は、患者の治療中における体験に限定している。

社内制度の利用

問 31～34 は、患者さんをケアするために、仕事や働き方を変えた方について伺います。
（複数いらっしゃる場合は最も変化の大きかった方についてお答えください）
問 34. ケアと仕事を両立するために利用したものについて、お答えください（当てはまるものすべてに〇）。
回答選択肢:{両立の相談窓口；時間単位、半日単位の休暇制度（定期的・不定期に取得する休暇）；時差出勤（長さは所定の労働時間で出勤をずらす）；短時間勤務制度（所定労働時間を一定期間、短縮する制度）；在宅勤務（テレワーク）；試し出勤（長期間休業していた者に対し、復職時に一定期間、時間や日数を短縮した勤務を行うこと）；その他；上記のものは利用していない}

	対象(分母)	算出法（分子）
問 34	働き方を変えたと回答した人*1	何らかの制度を利用したと回答した人*2 の割合
結果	46.2%	

*1　問 30 で「はい」と回答した人
*2　「上記のものは利用していない」以外の回答者

＜成人患者体験調査との比較＞
成人調査において、同一の問いに対する結果は 36.1%であったが、対象（分母）が「診断時、収入のある仕事をしていた」となっており小児調査と対象者が異なるため比較はできない。

＜がん種別・就業形態別の結果＞
「上記のものは利用していない」以外の回答をした人は、【造血器腫瘍患者】で 41.8%、【固形腫瘍患者（脳腫瘍を除く）】で 53.4%、【脳腫瘍患者】46.9%でであった。【造血器腫瘍患者】は、【固形腫瘍患者（脳腫瘍を除く）】よりも統計的有位に低かった（P<0.01）。また、【脳腫瘍患者】と【固形腫瘍患者（脳腫瘍を除く）】、【造血器腫瘍患者】と【脳腫瘍患者】ではいずれも統計的有意差はなかった（各々P=0.98、P=0.41）。

働き方を変えたと回答した人の分布（合計 671 名）

がん種 社内制度	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
両立の相談窓口	12 (1.9%)	1 (0.3%)	8 (3.9%)	3 (3.7%)
時間単位、半日単位の休暇制度(定期的・不定期に取得する休暇)	176 (27.7%)	79 (24.5%)	71 (34.5%)	21 (25.9%)
時差出勤(長さは所定の労働時間で出勤をずらす)	61 (9.6%)	28 (8.7%)	23 (11.2%)	6 (7.4%)
短時間勤務制度(所定労働時間を一定期間、短縮する制度)	97 (15.3%)	47 (14.6%)	37 (18.0%)	11 (13.6%)
在宅勤務(テレワーク)	24 (3.8%)	11 (3.4%)	9 (4.4%)	3 (3.7%)
試し出勤(長期間休業していた者に対し、復職時に一定期間、時間や日数を短縮した勤務を行うこと)	18 (2.8%)	5 (1.6%)	9 (4.4%)	3 (3.7%)
その他	33 (5.2%)	19 (5.9%)	6 (2.9%)	7 (8.6%)
上記のものは利用していない	342 (53.8%)	188 (58.2%)	96 (46.6%)	43 (53.1%)

複数回答可(合計 636 名)。問 34 への無回答(35 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 26 名を含む。

働き方を変えたと回答した人の分布 ＜就業形態別の結果＞（合計 671 名）

	正社員	個人事業主	契約社員・委託社員	パート・アルバイト	派遣職員	その他
両立の相談窓口	9 (2.8%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (0.9%)	0 (0%)	1 (11.1%)
時間単位、半日単位の休暇制度(定期的・不定期に取得する休暇)	124 (39.0%)	3 (7.5%)	12 (35.3%)	34 (15.4%)	1 (8.3)	1 (11.1%)
時差出勤(長さは所定の労働時間で出勤をずらす)	35 (11.0%)	6 (15.0%)	4 (11.8%)	14 (6.3%)	0 (0%)	2 (22.2%)
短時間勤務制度(所定労働時間を一定期間、短縮する制度)	46 (14.5%)	6 (15.0%)	7 (20.6%)	36 (16.3%)	2 (16.7%)	0 (0%)
在宅勤務(テレワーク)	16 (5.0%)	2 (5.0%)	0 (0%)	4 (1.8%)	0 (0%)	2 (22.2%)
試し出勤(長期間休業していた者に対し、復職時に一定期間、時間や日数を短縮した勤務を行うこと)	9 (2.8%)	1 (2.5%)	0 (0%)	8 (3.6%)	0 (0%)	0 (0%)
その他	21 (6.6%)	3 (7.5%)	1 (2.9%)	5 (2.3%)	1 (8.3%)	1 (11.1%)
上記のものは利用していない	140 (44.0%)	26 (65.0%)	17 (50.0%)	146 (66.1%)	8 (66.7%)	5 (55.6%)

複数回答可（合計 634 名）。問 31、問 34 への無回答（それぞれ 4 名、35 名。計 37 名）は除外。

＜留意点＞

特記事項なし。

相談支援

療養に関する相談

問 21. がんと診断されてから、相談を必要とした時に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談できましたか。
回答選択肢：{相談できた；相談が必要だったが、できなかった；相談を必要としなかった}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 21	回答者全体	「相談できた」と回答した人の割合
結果	91.4%	

具体的な相談相手は次頁の表参照。

＜成人患者体験調査との比較＞
成人調査において、同一の問いに対する結果は 76.3%であった。
また、成人調査において、「誰に相談しましたか」という問いに対する結果は、「自分の家族」69.8%、「主治医」 66.9%、「友人」13.2%、「看護師」9.9%、「医師、看護師以外の医療スタッフ」7.4%、「がん相談支援センターの担当者」3.9%、「他のがん患者（患者団体を含む）」3.0%、「インターネットの相談（質問）サイト」1.8%、「その他」1.5%であった。

＜がん種別の結果＞
「相談できた」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 93.3%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 89.1%、【脳腫瘍患者】で 91.4%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった（P=0.08）。
また、「相談を必要としなかった」と回答した人を除外し、相談が必要な人に分母を絞って解析を行ったところ、「相談できた」と回答した人は、【造血器腫瘍患者】で 96.2%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 93.6%、【脳腫瘍患者】で 94.4%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった（P=0.22）。

がん種 / 療養の相談	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
相談できた	940 (91.4%)	449 (93.3%)	334 (89.1%)	117 (91.4%)
相談が必要だったが、できなかった	50 (4.9%)	18 (3.7%)	23 (6.1%)	7 (5.5%)
相談を必要としなかった	38 (3.7%)	14 (2.9%)	18 (4.8%)	4 (3.1%)
合計	1028 (100%)	481 (100%)	375 (100%)	128 (100%)

問 21 への無回答(1 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 44 名を含む。

【問 21c】
問 21 で「相談できた」と回答した人の分布（療養に関する相談ができた相手について）（合計 940 名）

がん種 相談相手	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 （脳腫瘍を除く）	脳腫瘍
主治医	726 (77.3%)	360 (80.2%)	248 (74.3%)	88 (75.2%)
看護師	654 (69.6%)	345 (76.8%)	202 (60.5%)	79 (67.5%)
医師、看護師以外の医療スタッフ	342 (36.4%)	188 (41.9%)	94 (28.1%)	40 (34.2%)
相談支援センターの担当者	137 (14.6%)	55 (12.2%)	56 (16.8%)	20 (17.1%)
家族	672 (71.6%)	314 (69.9%)	257 (76.9%)	78 (66.7%)
友人	232 (24.7%)	108 (24.1%)	94 (28.1%)	22 (18.8%)
幼稚園・保育園・学校等の教育関係者(スクールカウンセラーを含む)	201 (21.4%)	101 (22.5%)	66 (19.8%)	25 (21.4%)
他のがん患者 (患者団体を含む)	263 (28.0%)	145 (32.3%)	84 (25.1%)	28 (23.9%)
インターネットの相談 (質問)サイト	53 (5.6%)	14 (3.1%)	24 (7.2%)	14 (12.0%)
その他	26 (2.8%)	16 (3.6%)	8 (2.4%)	1 (0.9%)

複数回答可（合計 939 名）。問 21cへの無回答（1 名）は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8へ無回答)の 39 名を含む。

＜留意点＞
特記事項なし。

外見に関する相談

問 22. がんや治療にともなう外見の変化に関する悩み（脱毛や皮膚障害などを含む）を誰かに相談できましたか。
回答選択肢：{相談できた；相談が必要だったが、できなかった；相談が必要かわからなかった；相談を必要としなかった；わからない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 22	回答者全体	「相談できた」と回答した人の割合
結果	51.8%	

＜成人患者体験調査との比較＞
成人調査において、同一の問いに対する結果は 28.3%であった。

＜がん種別・男女別の結果＞
「相談できた」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 56.1%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 49.5%、【脳腫瘍患者】で 45.3%であった。【脳腫瘍患者】は【造血器腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった(P=0.03)。また、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【造血器腫瘍患者】、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】ではいずれも統計的有意差はなかった(各々P=0.05、P=0.42）。
また、「相談が必要だったが、できなかった」と回答した人は、【造血器腫瘍患者】で 3.3%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 7.2%、【脳腫瘍患者】で 7.0%であった。【造血器腫瘍患者】は【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】よりも統計的有意に低かった(P=0.01)。【脳腫瘍患者】と【造血器腫瘍患者】、【脳腫瘍患者】と【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】ではいずれも統計的有意差はなかった(各々P=0.06、P=0.94)。
さらに、「相談を必要としなかった」または「わからない」と回答をした人を除外して解析を行ったところ、「相談が必要かわからなかった」12.6%、「相談が必要だったが、できなかった」8.5%、「相談できた」78.9%であった。
「相談できた；相談が必要だったが、できなかった；相談が必要かわからなかった」という回答の患者は、年齢中央値 8 歳(年齢幅：0 歳～18 歳)であった。
また、「相談できた」という回答の患者は男児 45.4%、女児 61.0%であり、男児は女児より統計的有意に低かった(P<0.01)。
「相談が必要だったが、できなかった」という回答の患者は、男児 6.3%、女児 4.5%であり、統計的有意差はなかった(P=0.22)。

がん種 外見の相談	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
相談できた	532 (51.8%)	270 (56.1%)	185 (49.5%)	58 (45.3%)
相談が必要だったが、できなかった	57 (5.6%)	16 (3.3%)	27 (7.2%)	9 (7.0%)
相談が必要かわからなかった	85 (8.3%)	34 (7.1%)	28 (7.5%)	18 (14.1%)
相談を必要としなかった	322 (31.4%)	150 (31.2%)	118 (31.6%)	40 (31.3%)
わからない	31 (3.0%)	11 (2.3%)	16 (4.3%)	3 (2.3%)
合計	1027 (100%)	481 (100%)	374 (100%)	128 (100%)

問 22 への無回答(2 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 44 名を含む。

＜留意点＞
特記事項なし。

きょうだいに関する相談

問 24. 患者さんのきょうだいに関すること（患者さんの病気や病状に関する説明の仕方、きょうだいの養育、日常・学校生活の問題など）を誰かに相談できましたか。
回答選択肢：{相談できた；相談が必要だったが、できなかった；相談が必要かわからなかった；相談を必要としなかった；わからない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 24	きょうだいがいると回答した人*	「相談できた」と回答した人の割合
結果	66.7%	

*問 23 に「いる」と回答した人

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
問 23 において、患者にきょうだいが「いる」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 84.2%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 81.9%、【脳腫瘍患者】で 85.9%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった（P=0.49)。
問 24 において、きょうだいに関することで誰かに「相談できた」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 71.0%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 64.6%、【脳腫瘍患者】で 58.2%であった。【脳腫瘍患者】は【造血器腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった（P=0.01)。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【造血器腫瘍患者】、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】ではいずれも統計的有意差はなかった（各々P=0.07、P=0.23)。
「相談が必要だったが、できなかった」と回答した人は、【造血器腫瘍患者】で 5.7%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 5.5%、【脳腫瘍患者】で 4.5%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった（P=0.95)。
「相談を必要としなかった」または「わからない」と回答をした人を除外して解析を行ったところ、「相談が必要かわからなかった」5.6%、「相談が必要だったが、できなかった」6.9%、「相談できた」87.5%であった。
「相談できた、相談が必要だったができなかった、相談が必要かわからなかった」という回答の患者は、年齢中央値 7 歳(年齢幅：0 歳～18 歳)であった。

問 23. 患者さんにきょうだいはいますか？
回答選択肢：{いる；いない}

がん種 / きょうだいの有無	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍（脳腫瘍を除く）	脳腫瘍
いる	863 (83.9%)	405 (84.2%)	308 (81.9%)	110 (85.9%)
いない	166 (16.1%)	76 (15.8%)	68 (18.1%)	18 (14.1%)
合計	1029 (100%)	481 (100%)	376 (100%)	128 (100%)

全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 44 名を含む。

【問 24】
きょうだいがいると回答した人の分布（合計 863 名）

がん種 / きょうだいの相談	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍（脳腫瘍を除く）	脳腫瘍
相談できた	574 (66.7%)	287 (71.0%)	199 (64.6%)	64 (58.2%)
相談が必要だったが、できなかった	45 (5.2%)	23 (5.7%)	17 (5.5%)	5 (4.5%)
相談が必要かわからなかった	37 (4.3%)	12 (3.0%)	10 (3.2%)	14 (12.7%)
相談を必要としなかった	197 (22.9%)	79 (19.6%)	77 (25.0%)	27 (24.5%)
わからない	8 (0.9%)	3 (0.7%)	5 (1.6%)	0 (0%)
合計	861 (100%)	404 (100%)	308 (100%)	110 (100%)

問 24 への無回答（2 名）は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 39 名を含む。

【問 24(1)】
問 24 で「相談できた」と回答した人の分布（きょうだいに関する相談ができた相手について）（合計 574 名）

がん種 相談相手	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 （脳腫瘍を除く）	脳腫瘍
主治医	122 (21.3%)	68 (23.7%)	35 (17.7%)	13 (20.3%)
看護師	119 (20.8%)	63 (22.0%)	36 (18.2%)	15 (23.4%)
医師、看護師以外の医療スタッフ	87 (15.2%)	45 (15.7%)	25 (12.6%)	14 (21.9%)
相談支援センターの担当者	28 (4.9%)	12 (4.2%)	10 (5.1%)	2 (3.1%)
家族	478 (83.4%)	237 (82.6%)	174 (87.9%)	48 (75.0%)
友人	165 (28.8%)	87 (30.3%)	58 (29.3%)	15 (23.4%)
幼稚園・保育園・学校等の教育関係者(スクールカウンセラーを含む)	275 (48.0%)	140 (48.8%)	92 (46.5%)	31 (48.4%)
他のがん患者(患者団体を含む)	58 (10.1%)	30 (10.5%)	20 (10.1%)	4 (6.3%)
インターネットの相談(質問)サイト	5 (0.9%)	2 (0.7%)	2 (1.0%)	1 (1.6%)
その他	9 (1.6%)	7 (2.4%)	2 (1.0%)	0 (0%)

複数回答可（合計 573 名）。問 24(1)への無回答（1 名）は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 24 名を含む。

＜留意点＞
特記事項なし。

家族への支援・サービス・場所

以下の文章を読んで、その内容がどの程度当てはまるかを考え、お答えください。

問 40-2. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある。
回答選択肢：{とてもそう思う；ある程度そう思う；ややそう思う；どちらともいえない；そう思わない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 40-2	回答者全体	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合
結果	39.7%	

＜成人患者体験調査との比較＞
成人調査において、同一の問いに対する結果は 47.7%であったが、回答者別では「本人」48.7%、「家族やその他」44.5%であった。

＜がん種別の結果＞
「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 44.5%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 36.7%、【脳腫瘍患者】で 32.0%であった。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】および【脳腫瘍患者】は、【造血器腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった(各々P=0.02, P=0.01)。また、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】では統計的有意差はなかった (P=0.34)。

がん種 / 家族への支援・サービス・場所	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
とてもそう思う	107 (10.5%)	61 (12.8%)	33 (8.8%)	9 (7.0%)
ある程度そう思う	298 (29.2%)	151 (31.7%)	104 (27.9%)	32 (25.0%)
ややそう思う	292 (28.6%)	130 (27.3%)	109 (29.2%)	40 (31.3%)
どちらともいえない	228 (22.4%)	96 (20.2%)	94 (25.2%)	33 (25.8%)
そう思わない	95 (9.3%)	38 (8.0%)	33 (8.8%)	14 (10.9%)
合計	1020 (100%)	476 (100%)	373 (100%)	128 (100%)

問 40-2 への無回答(9 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 43 名を含む。

＜留意点＞
特記事項なし。

がん相談支援センターの認知度と利用実態

問 41. 相談支援センター「注」を知っていますか。
回答選択肢：{知っている；知らない}
「注」相談支援センター：全国の小児がん拠点病院、がん診療連携拠点病院などに設置されている病気や療養生活などに関する相談窓口

	対象(分母)	算出法(分子)
問 41	回答者全体	「知っている」と回答した人の割合
結果	66.4%	

＜成人患者体験調査との比較＞
成人調査において、同一の問いに対する結果は 66.4%であった。また、がん相談支援センターを「利用したことがある」と回答した人は、「知っている」と回答した人の 14.4%（全体：9.6%）であった。

＜がん種別の結果＞
「知っている」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 62.1%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 69.1%、【脳腫瘍患者】で 74.2%であった。【造血器腫瘍患者】は、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】および【脳腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった(各々P=0.03, P=0.01)。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】では統計的有意差はなかった(P=0.28)。
また、「利用したことがある」と回答した人は【造血器腫瘍患者】で 27.9%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 38.8%、【脳腫瘍患者】で 44.2%であった。【造血器腫瘍患者】は【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】および【脳腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった(各々P<0.01, P<0.01)。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】では統計的有意差はなかった(P=0.35)。

【問 41】

がん種 / 相談支援センターの認知度	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
知っている	683 (66.4%)	298 (62.1%)	260 (69.1%)	95 (74.2%)
知らない	345 (33.6%)	182 (37.9%)	116 (30.9%)	33 (25.8%)
合計	1028 (100%)	480 (100%)	376 (100%)	128 (100%)

問 41 への無回答(1 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 44 名を含む。

【問 41(1)】
問 41 で「知っている」と回答した人の分布(相談支援センター利用の有無について)(合計 683 名)

がん種 相談支援センターの利用	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
利用したことがある	237 (34.9%)	83 (27.9%)	100 (38.8%)	42 (44.2%)
利用したことはない	443 (65.1%)	214 (72.1%)	158 (61.2%)	53 (55.8%)
合計	680 (100%)	297 (100%)	258 (100%)	95 (100%)

問 41(1)への無回答(3 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 30 名を含む。

【問 41(2)】
問 41(1)で「利用したことはない」と回答した人の分布(相談支援センターを利用したことがない理由について)(合計 443 名)

がん種 未利用の理由	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
必要としていたときには知らなかった	66 (16.3%)	39 (19.5%)	18 (12.6%)	8 (17.8%)
相談したいことはなかった	205 (50.5%)	103 (51.5%)	71 (49.7%)	22 (48.9%)
何を相談する場なのかわからなかった	99 (24.4%)	45 (22.5%)	38 (26.6%)	12 (26.7%)
プライバシーの観点から行きづらかった	26 (6.4%)	15 (7.5%)	8 (5.6%)	3 (6.7%)
相談を受け止めてもらえるか自信がなかった	38 (9.4%)	18 (9.0%)	15 (10.5%)	3 (6.7%)
他の患者の目が気になった	6 (1.5%)	3 (1.5%)	2 (1.4%)	1 (2.2%)
その他	24 (5.9%)	13 (6.5%)	6 (4.2%)	2 (4.4%)

複数回答可(合計 406 名)。問 41(2)への無回答(37 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 18 名を含む。

【問 41(3)】
問 41(1)で「利用したことがある」と回答した人の分布(相談支援センターが役に立ったかどうかについて)(合計 237 名)

がん種 有用性	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
とても役に立った	94 (39.8%)	30 (36.1%)	38 (38.4%)	22 (52.4%)
ある程度役に立った	68 (28.8%)	23 (27.7%)	29 (29.3%)	11 (26.2%)
やや役に立った	34 (14.4%)	18 (21.7%)	10 (10.1%)	5 (11.9%)
どちらともいえない	25 (10.6%)	8 (9.6%)	15 (15.2%)	2 (4.8%)
役に立たなかった	15 (6.4%)	4 (4.8%)	7 (7.1%)	2 (4.8%)
合計	236 (100%)	83 (100%)	99 (100%)	42 (100%)

問 41(3)への無回答(1 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 12 名を含む。

＜留意点＞
問 41(2)において、「相談したいことはなかった」と回答した人の中には、客観的には相談支援センターを活用することが有用と考えられるケースがあった可能性がある。

教育の継続

がん診断時の就学状況

問 35. 患者さんは、がんと診断された時、就学していましたか。
回答選択肢：{はい；いいえ}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 35	回答者全体	「はい」と回答した人の割合
結果	50.6%	

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
「はい」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 51.1%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 47.9%、【脳腫瘍患者】で 53.5%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった (P=0.45)。

【問 35】

がん種 / 就学状況	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
はい	518 (50.6%)	245 (51.1%)	179 (47.9%)	68 (53.5%)
いいえ	506 (49.4%)	234 (48.9%)	195 (52.1%)	59 (46.5%)
合計	1024 (100%)	479 (100%)	374 (100%)	127 (100%)

問 35 への無回答(5 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 44 名を含む。

【造血器腫瘍患者】と【脳腫瘍患者】では、患者ががんと診断された時「小学校」に就学していたと回答した人が最も多く(各々50.8%, 66.2%)、2 番目が「中学校」であった(各々24.8%, 22.1%)。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】でも最多は「小学校」の 34.5%であったが、2 番目は「高等学校」の 31.1%であった。

【問 35a】
問 35 で「はい」と回答した人の分布(就学していた学校)（合計 518 名）

がん種 就学先	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
小学校	242　(47.2%)	123　(50.8%)	61　(34.5%)	45　(66.2%)
中学校	129　(25.1%)	60　(24.8%)	49　(27.7%)	15　(22.1%)
高等学校	105　(20.5%)	39　(16.1%)	55　(31.1%)	5　(7.4%)
特別支援学校	12　(2.3%)	9　(3.7%)	3　(1.7%)	0　(0%)
大学(短期大学を含む)	12　(2.3%)	4　(1.7%)	4　(2.3%)	3　(4.4%)
その他	13　(2.5%)	7　(2.9%)	5　(2.8%)	0　(0.0%)
合計	513　(100%)	242　(100%)	177　(100%)	68　(100%)

問 35a への無回答(5 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 26 名を含む。

＜留意点＞
問 35 で「いいえ」と回答した患者の中には未就学児のみならず、他の理由で就学していなかった人(高等学校や大学に進学しなかった人等)も含まれる。

転校・休学・退学の経験

問 36～39 はがんと診断された時に、就学していた方に伺います。

問 36(1)．教育について、がん治療のために以下のようなことがありましたか。
複数当てはまる場合は直近のものについてお答えください。
【　A　】を【　B　】している（いた）。（左記に当てはまらない場合の選択肢【　C　】）
回答選択肢 A：{小学校；中学校；高等学校；特別支援学校；大学(短期大学を含む)；その他}
回答選択肢 B：{転校(転籍・副籍を含みます)；休学；退学；その他}
回答選択肢 C：{上記のようなことはなかった；わからない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 36(1)	がんと診断された時就学していたと回答した人*1	転校・休学・退学を経験したと回答した人の割合*2
結果	87.5%	

*1 問 35 に「はい」と回答した人
*2「上記のようなことはなかった」「わからない」以外と回答した人
回答選択肢 A と C の回答における人数(割合)の内訳は、「小学校」206(41.0%)、「中学校」118(23.5%)、「高等学校」80(15.9%)、「特別支援学校」12(2.4%)、「大学(短期大学を含む)」14(2.8%)、「その他」10(2.0%)、「上記のようなことはなかった」63(12.5%)、「わからない」0(0%)であった(無回答 15 名は除外)。

分子に該当する回答について、在籍校別の内訳(合計 440 名)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
転校	167　(81.1%)	70　(59.3%)	14　(17.5%)	7　(58.3%)	0　(0.0%)	0　(0.0%)
休学	34　(16.5%)	43　(36.4%)	49　(61.3%)	4　(33.3%)	11　(78.6%)	4　(40.0%)
退学	1　(0.5%)	1　(0.8%)	7　(8.8%)	1　(8.3%)	2　(14.3%)	4　(40.0%)
その他	4　(1.9%)	4　(3.4%)	10　(12.5%)	0　(0.0%)	1　(7.1%)	2　(20.0%)
合計	206　(100%)	118　(100%)	80　(100%)	12　(100%)	14　(100%)	10　(100%)

在籍校を「小学校」もしくは「中学校」と回答した人は「転校」したと回答した人がそれぞれ 81.1%、59.3%と最多である一方、「高等学校」に在籍していた人は「休学」したと回答した人が 61.3%と最多であった。また、「退学」したと回答した人は在籍校が「小学校」、「中学校」の回答者では 1%未満(それぞれ 0.5%, 0.8%)であるが、「高等学校」では 8.8%であった。

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
「上記のようなことはなかった」以外を回答した人は【造血器腫瘍患者】で 93.3%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 79.9%、【脳腫瘍患者】で 84.6%であった。【造血器腫瘍患者】は【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】および【脳腫瘍患者】よりも統計的有意に高かった(各々 P<0.01, P=0.03)。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】では統計的有意差はなかった(P=0.41)。

造血器腫瘍患者(合計 245 名)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
転校	106 (89.8%)	37 (71.2%)	6 (15.8%)	3 (42.9%)	0 (0%)	0 (0%)
休学	10 (8.5%)	13 (25.0%)	24 (63.2%)	4 (57.1%)	3 (60.0%)	1 (33.3%)
退学	1 (0.8%)	0 (0%)	5 (13.2%)	0 (0%)	2 (40.0%)	2 (66.7%)
その他	1 (0.8%)	2 (3.8%)	3 (7.9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	118 (100%)	52 (100%)	38 (100%)	7 (100%)	5 (100%)	3 (100%)

問 36(1)への無回答(6 名)、「上記のようなことはなかった」と回答(16 名)した人は除外。

固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)(合計 179 名)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
転校	35 (74.5%)	18 (46.2%)	7 (20.6%)	4 (80.0%)	0 (0%)	0 (0%)
休学	10 (21.3%)	20 (51.3%)	19 (55.9%)	0 (0%)	7 (87.5%)	2 (33.3%)
退学	0 (0%)	0 (0%)	1 (2.9%)	1 (20.0%)	0 (0%)	2 (33.3%)
その他	2 (4.3%)	1 (2.6%)	7 (20.6%)	0 (0%)	1 (12.5%)	2 (33.3%)
合計	47 (100%)	39 (100%)	34 (100%)	5 (100%)	8 (100%)	6 (100%)

問 36(1)への無回答(5 名)、「上記のようなことはなかった」と回答(35 名)した人は除外。

脳腫瘍患者(合計 68 名)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
転校	18 (58.1%)	13 (65.0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
休学	12 (38.7%)	7 (35.0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
退学	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
その他	1 (3.2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	31 (100%)	20 (100%)	3 (100%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)

問 36(1)への無回答(3 名)、「上記のようなことはなかった」と回答(10 名)した人は除外。

＜留意点＞
回答選択肢 C の「わからない」を回答した人はいなかった。

就学支援制度の利用

問 36(2). 転校・休学・退学した方にお尋ねします。
治療中に利用したものについてお答えください(当てはまるものすべてに○)。
回答選択肢：{原籍校の教員が病院や自宅等にきて授業を受けた；病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた；ICT 機器などを活用し、遠隔で授業を受けた；学習支援員やボランティアによる支援等で対面での学習支援を受けた；原籍校で録画された授業の視聴や原籍校からの課題や補習を受けた；家庭教師などを病院へ派遣し、学習した；利用したものはない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 36(2)	転校・休学・退学を経験したと回答した人*1	治療中に何らかの就学支援制度を利用したと回答した人の割合*2
結果	75.9%	

*1 問 35 に「はい」と回答し、問 36(1)で回答選択肢 A,B を選択した人
*2 「利用したものはない」以外の回答者

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
「利用したものはない」以外を回答した人は【造血器腫瘍患者】で 85.5%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 61.8%、【脳腫瘍患者】で 74.1%であった。【造血器腫瘍患者】は【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】および【脳腫瘍患者】よりも統計的有意に高かった(各々P<0.01, P=0.04)。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】では統計的有意差はなかった(P=0.11)。

転校・休学・退学を経験したと回答した人の分布(合計 440 名)

がん種 就学支援	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
原籍校の教員が病院や自宅等にきて授業を受けた	14 (3.3%)	11 (5.0%)	2 (1.5%)	1 (1.9%)
病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた	297 (69.6%)	175 (79.5%)	71 (54.2%)	37 (68.5%)
ICT 機器などを活用し、遠隔で授業を受けた	9 (2.1%)	6 (2.7%)	2 (1.5%)	1 (1.9%)
学習支援員やボランティアによる支援等で対面での学習支援を受けた	18 (4.2%)	12 (5.5%)	5 (3.8%)	1 (1.9%)
原籍校で録画された授業の視聴や原籍校からの課題や補習を受けた	21 (4.9%)	12 (5.5%)	5 (3.8%)	3 (5.6%)
家庭教師などを病院へ派遣し、学習した	2 (0.5%)	1 (0.5%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
利用したものはない	103 (24.1%)	32 (14.5%)	50 (38.2%)	14 (25.9%)

複数回答可(合計 427 名)。問 36(2)への無回答(13 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 22 名を含む。

<転校・休学・退学を経験した時の在籍校別の結果>

在籍校が「小学校」もしくは「中学校」であった人の中では、「病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた」と回答した人が最も多かった(各々90.7%, 77.6%)。一方「高等学校」に在籍していた人の中では、「利用したものはない」と回答した人が 61.1%と最多であった。

転校・休学・退学を経験したと回答した人の分布(合計 440 名)

在籍校 / 就学支援	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
原籍校の教員が病院や自宅等にきて授業を受けた	7 (3.4%)	1 (0.9%)	4 (5.6%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた	185 (90.7%)	90 (77.6%)	14 (19.4%)	8 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ICT 機器などを活用し、遠隔で授業を受けた	5 (2.5%)	0 (0.0%)	3 (4.2%)	1 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)
学習支援員やボランティアによる支援等で対面での学習支援を受けた	1 (0.5%)	8 (6.9%)	8 (11.1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (11.1%)
原籍校で録画された授業の視聴や原籍校からの課題や補習を受けた	3 (1.5%)	8 (6.9%)	8 (11.1%)	1 (8.3%)	0 (0%)	1 (11.1%)
家庭教師などを病院へ派遣し、学習した	0 (0%)	1 (0.9%)	1 (1.4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
利用したものはない	14 (6.9%)	20 (17.2%)	44 (61.1%)	4 (33.3%)	14 (100%)	7 (77.8%)

複数回答可(合計 427 名; 小学校 204 名、中学校 116 名、高等学校 72 名、特別支援学校 12 名、大学 14 名、その他 9 名)。問 36(2)への無回答(13 名)は除外。

在籍校が「高等学校」であった人のうち、「利用したものはない」と回答した人は【造血器腫瘍患者】で 52.8%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 64.3%、【脳腫瘍患者】で 100%であった。3 群間で統計的検定を行ったところ有意差はなかった (P=0.27)。

＜留意点＞

特記事項なし。

復学の経験

問 36(3)．転校・休学・退学した方にお尋ねします。
その後、復学しましたか。
回答選択肢：{(少なくとも一度は)復学した；(一度も)復学していない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 36(3)	転校・休学・退学を経験したと回答した人*	「復学した」と回答した人の割合
結果	92.6%	

*問 35 に「はい」と回答し、問 36(1)で回答選択肢 A,B を選択した人

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
「復学した」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 92.5%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 92.2%、【脳腫瘍患者】で 94.3%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった（P=0.87)。

【問 36(3)】
転校・休学・退学を経験したと回答した人の分布(合計 440 名)

がん種 / 復学状況	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
復学した	386 (92.6%)	197 (92.5%)	119 (92.2%)	50 (94.3%)
復学していない	31 (7.4%)	16 (7.5%)	10 (7.8%)	3 (5.7%)
合計	417 (100%)	213 (100%)	129 (100%)	53 (100%)

問 36(3)への無回答(23 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 22 名を含む。

【問 36(3-1)】
「復学した」と回答した人の分布(復学のために、学校・教育関係者や医療者から配慮があったか)（合計 386 名）

がん種 / 復学への配慮	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
あった	349 (92.1%)	184 (94.8%)	99 (85.3%)	46 (93.9%)
なかった	18 (4.7%)	5 (2.6%)	10 (8.6%)	3 (6.1%)
わからない	12 (3.2%)	5 (2.6%)	7 (6.0%)	0 (0%)
合計	379 (100%)	194 (100%)	116 (100%)	49 (100%)

問 36(3-1)への無回答(7 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 20 名を含む。

【問 36(3-2)】
「復学していない」と回答した人の分布(復学していない理由)(合計 31 名)

がん種 復学していない理由	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
学校側の協力が得られにくい	1 (3.3%)	1 (6.3%)	0 (0%)	0 (0%)
患者の気持ちが復学に向かない	7 (23.3%)	4 (25.0%)	2 (22.2%)	1 (33.3%)
身体的に難しい(治療中で医師からの許可が出ていない、亡くなっている)	19 (63.3%)	9 (56.3%)	6 (66.7%)	2 (66.7%)
その他	4 (13.3%)	2 (12.5%)	2 (22.2%)	0 (0%)

複数回答可(合計 30 名)。問 36(3-2)への無回答(1 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 2 名を含む。

<転校・休学・退学を経験した時の在籍校別の結果>

【問 36(3)】
転校・休学・退学を経験したと回答した人の分布(合計 440 名)

在籍校 復学状況	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
復学した	191 (96.0%)	102 (91.9%)	63 (87.5%)	11 (91.7%)	12 (92.3%)	7 (70.0%)
復学していない	8 (4.0%)	9 (8.1%)	9 (12.5%)	1 (8.3%)	1 (7.7%)	3 (30.0%)
合計	199 (100%)	111 (100%)	72 (100%)	12 (100%)	13 (100%)	10 (100%)

問 36(3)への無回答(23 名)は除外。

【問 36(3-1)】
「復学した」と回答した人の分布(復学のために、学校・教育関係者や医療者から配慮があったか)(合計 386 名)

在籍校 復学への配慮	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
あった	179 (94.7%)	90 (91.8%)	58 (92.1%)	10 (90.9%)	8 (66.7%)	4 (66.7%)
なかった	4 (2.1%)	7 (7.1%)	3 (4.8%)	0 (0%)	3 (25.0%)	1 (16.7%)
わからない	6 (3.2%)	1 (1.0%)	2 (3.2%)	1 (9.1%)	1 (8.3%)	1 (16.7%)
合計	189 (100%)	98 (100%)	63 (100%)	11 (100%)	12 (100%)	6 (100%)

問 36(3-1)への無回答(7 名)は除外。

【問 36(3-2)】
「復学していない」と回答した人の分布(復学していない理由)(合計 31 名)

在籍校 / 復学していない理由	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
学校側の協力が得られにくい	0 (0%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
患者の気持ちが復学に向かない	2 (25.0%)	0 (0%)	3 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)
身体的に難しい(治療中で医師からの許可が出ていない、亡くなっている)	5 (62.5%)	6 (75.0%)	5 (55.6%)	1 (100%)	1 (100%)	1 (33.3%)
その他	1 (12.5%)	2 (25.0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)

複数回答可(合計 30 名; 小学校 8 名、中学校 8 名、高等学校 9 名、特別支援学校 1 名、大学 1 名、その他 3 名)。問 36(3-2)への無回答(1 名)は除外。

＜留意点＞

特記事項なし。

教育支援に関する医療スタッフからの説明

問 37. 治療を始める前に教育の支援等について、病院の医療スタッフから話がありましたか。
回答選択肢：{あった；なかった；わからない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 37	がんと診断された時就学していたと回答した人*	「あった」と回答した人の割合
結果	68.1%	

*問 35 に「はい」と回答した人

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
「あった」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 76.0%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 54.1%、【脳腫瘍患者】で 76.1%であった。【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】は【造血器腫瘍患者】および【脳腫瘍患者】よりも統計的有意に低かった(各々P<0.01, P<0.01)。【造血器腫瘍患者】と【脳腫瘍患者】では統計的有意差はなかった (P=0.98)。

【問 37】
がんと診断された時就学していたと回答した人の分布(合計 518 名)

がん種 / 医療スタッフからの説明	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
あった	343 (68.1%)	184 (76.0%)	93 (54.1%)	51 (76.1%)
なかった	137 (27.2%)	47 (19.4%)	71 (41.3%)	13 (19.4%)
わからない	24 (4.8%)	11 (4.5%)	8 (4.7%)	3 (4.5%)
合計	504 (100%)	242 (100%)	172 (100%)	67 (100%)

問 37 への無回答(14 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 23 名を含む。

【問 37(1)】
問 37 で説明が「なかった」と回答した人の分布(説明を必要としていたか) (合計 137 名)

がん種 / 説明の必要性	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
必要としていた	33 (27.7%)	15 (33.3%)	14 (23.3%)	3 (27.3%)
必要としていなかった	86 (72.3%)	30 (66.7%)	46 (76.7%)	8 (72.7%)
合計	119 (100%)	45 (100%)	60 (100%)	11 (100%)

問 37(1)への無回答(18 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 3 名を含む。

<診断時在籍校別の結果>

【問 37】

がんと診断された時就学していたと回答した人の分布(合計 518 名)

在籍校 / 医療スタッフからの説明	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
あった	204 (85.7%)	97 (78.2%)	28 (27.2%)	6 (50.0%)	1 (9.1%)	3 (27.3%)
なかった	27 (11.3%)	21 (16.9%)	68 (66.0%)	6 (50.0%)	9 (81.8%)	5 (45.5%)
わからない	7 (2.9%)	6 (4.8%)	7 (6.8%)	0 (0%)	1 (9.1%)	3 (27.3%)
合計	238 (100%)	124 (100%)	103 (100%)	12 (100%)	11 (100%)	11 (100%)

問 37、問 35a への無回答(それぞれ 14 名、5 名)は除外。

在籍校が「高等学校」であった人のうち、「なかった」と回答した人は【造血器腫瘍患者】で 66.7%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 69.8%、【脳腫瘍患者】で 40.0%であった。3 群間で統計的検定を行ったところ有意差はなかった (P=0.44)。

【問 37(1)】

問 37 で説明が「なかった」と回答した人の分布(説明を必要としていたか)(合計 137 名)

在籍校 / 説明の必要性	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
必要としていた	10 (38.5%)	2 (11.1%)	19 (33.3%)	1 (16.7%)	1 (14.3%)	0 (0%)
必要としていなかった	16 (61.5%)	16 (88.9%)	38 (66.7%)	5 (83.3%)	6 (85.7%)	5 (100%)
合計	26 (100%)	18 (100%)	57 (100%)	6 (100%)	7 (100%)	5 (100%)

問 37(1)への無回答(18 名)は除外。

＜留意点＞

特記事項なし。

学校関係者への相談

問 38. 学校の関係者に患者さんが『がんと診断されたこと』を話しましたか。
回答選択肢：{話した；話さなかった；わからない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 38	がんと診断された時就学していたと回答した人*	「話した」と回答した人の割合
結果	96.7%	

*問 35 に「はい」と回答した人

＜成人患者体験調査との比較＞
小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞
「話した」と回答をした人は【造血器腫瘍患者】で 98.8%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 94.3%、【脳腫瘍患者】で 95.6%であった。【造血器腫瘍患者】は【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】よりも統計的有意に高かった(P=0.01)。【造血器腫瘍患者】と【脳腫瘍患者】、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】と【脳腫瘍患者】ではいずれも統計的有意差はなかった（各々 P=0.09, P=0.69)。

【問 38】
がんと診断された時就学していたと回答した人の分布(合計 518 名)

がん種 / 学校関係者に話したか	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
話した	495 (96.7%)	240 (98.8%)	166 (94.3%)	65 (95.6%)
話さなかった	15 (2.9%)	2 (0.8%)	10 (5.7%)	2 (2.9%)
わからない	2 (0.4%)	1 (0.4%)	0 (0%)	1 (1.5%)
合計	512 (100%)	243 (100%)	176 (100%)	68 (100%)

問 38 への無回答(6 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 25 名を含む。

【問 38(1)】
問 38 で「話した」と回答した人の分布(誰に話したか)（合計 495 名）

がん種 話した相手	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍 (脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
担任や学年主任の先生・養護教諭・校長先生(学校内の先生)	483 (99.2%)	233 (98.7%)	163 (100%)	64 (98.5%)
同級生	101 (20.7%)	51 (21.6%)	33 (20.2%)	11 (16.9%)
同級生の親(PTA 含む)	102 (20.9%)	55 (23.3%)	27 (16.6%)	16 (24.6%)
教育委員会	15 (3.1%)	10 (4.2%)	2 (1.2%)	2 (3.1%)
その他	7 (1.4%)	3 (1.3%)	2 (1.2%)	2 (3.1%)

複数回答可(合計 487 名)。問 38(1)への無回答(8 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 23 名を含む。

<診断時在籍校別の結果>
【問 38】
がんと診断された時就学していたと回答した人の分布(合計 518 名)

在籍校 学校関係者に話したか	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
話した	233 (97.1%)	124 (96.9%)	102 (97.1%)	12 (100%)	8 (72.7%)	11 (100%)
話さなかった	6 (2.5%)	3 (2.3%)	3 (2.9%)	0 (0%)	3 (27.3%)	0 (0%)
わからない	1 (0.4%)	1 (0.8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	240 (100%)	128 (100%)	105 (100%)	12 (100%)	11 (100%)	11 (100%)

問 38、問 35a への無回答(それぞれ 6 名、5 名)は除外。

【問 38(1)】
問 38 で「話した」と回答した人の分布(誰に話したか)(合計 495 名)

在籍校 話した相手	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
学校内の先生	230 (100%)	122 (100%)	101 (100%)	12 (100%)	4 (57.1%)	10 (90.9%)
同級生	30 (13.0%)	26 (21.3%)	36 (35.6%)	0 (0%)	3 (42.9%)	4 (36.4%)
同級生の親(PTA 含む)	62 (27.0%)	19 (15.6%)	15 (14.9%)	2 (16.7%)	0 (0%)	2 (18.2%)
教育委員会	10 (4.3%)	2 (1.6%)	1 (1.0%)	1 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)
その他	1 (0.4%)	0 (0%)	2 (2.0%)	0 (0%)	3 (42.9%)	1 (9.1%)

複数回答可(合計 483 名; 小学校 230 名、中学校 122 名、高等学校 101 名、特別支援学校 12 名、大学 7 名、その他 11 名)。問 38(1)、問 35a への無回答(それぞれ 8 名、5 名。計 12 名)は除外。

＜留意点＞
特記事項なし。

がん治療と教育の両立

以下の文章を読んで、その内容が患者さんにどの程度当てはまるかを考え、お答えください。

問 39. 患者さんの治療中に、学校や教育関係者から治療と教育を両方続けられるような配慮があった。

回答選択肢：{とてもそう思う；ある程度そう思う；ややそう思う；どちらともいえない；そう思わない；わからない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問 39	がんと診断された時就学していたと回答した人*	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合
結果	76.6%	

*問 35 に「はい」と回答した人

＜成人患者体験調査との比較＞

小児調査で初めて設定された問いである。

＜がん種別の結果＞

「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人は【造血器腫瘍患者】で 79.8%、【固形腫瘍患者(脳腫瘍を除く)】で 73.6%、【脳腫瘍患者】で 76.5%であった。3 群間で統計的検定をしたところ、有意差はなかった (P=0.33)。

がんと診断された時就学していたと回答した人の分布(合計 518 名)

がん種 / 治療と教育の両立	全がん	造血器腫瘍	固形腫瘍(脳腫瘍を除く)	脳腫瘍
とてもそう思う	276 (54.2%)	146 (60.3%)	89 (51.1%)	31 (45.6%)
ある程度そう思う	114 (22.4%)	47 (19.4%)	39 (22.4%)	21 (30.9%)
ややそう思う	40 (7.9%)	19 (7.9%)	14 (8.0%)	5 (7.4%)
どちらともいえない	36 (7.1%)	13 (5.4%)	15 (8.6%)	4 (5.9%)
そう思わない	29 (5.7%)	13 (5.4%)	10 (5.7%)	4 (5.9%)
わからない	14 (2.8%)	4 (1.7%)	7 (4.0%)	3 (4.4%)
合計	509 (100%)	242 (100%)	174 (100%)	68 (100%)

問 39 への無回答(9 名)は除外。全がんには、がんの種類を無回答(問 8 へ無回答)の 25 名を含む。

<診断時在籍校別の結果>

がんと診断された時就学していたと回答した人の分布(合計 518 名)

在籍校 治療と教育の両立	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他
とてもそう思う	146 (61.1%)	63 (49.6%)	52 (50.0%)	6 (50.0%)	3 (27.3%)	5 (45.5%)
ある程度そう思う	47 (19.7%)	40 (31.5%)	17 (16.3%)	3 (25.0%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)
ややそう思う	22 (9.2%)	5 (3.9%)	8 (7.7%)	1 (8.3%)	1 (9.1%)	3 (27.3%)
どちらともいえない	12 (5.0%)	9 (7.1%)	11 (10.6%)	1 (8.3%)	2 (18.2%)	0 (0%)
そう思わない	7 (2.9%)	7 (5.5%)	14 (13.5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (9.1%)
わからない	5 (2.1%)	3 (2.4%)	2 (1.9%)	1 (8.3%)	2 (18.2%)	1 (9.1%)
合計	239 (100%)	127 (100%)	104 (100%)	12 (100%)	11 (100%)	11 (100%)

問 39、問 35a への無回答(それぞれ 9 名、 5 名)は除外。

＜留意点＞

特記事項なし。